

母娘関係が介護意識に与える影響：青年期後期および中年期の比較

佐藤 優 武藤 ひな子 伊藤 久 範

森崎 颯 太 稲垣 亮 汰

杏林大学保健学部作業療法学科 4 年

これまで、親の介護に対する構えには、病前の親子関係が関係している可能性が報告されている^{1,2)}。また世代によって母娘関係は異なる^{3,4)}ことから、世代間においても娘の介護に対する構えが異なる可能性がある。しかし、これまで病前の親子関係が将来的な母親の介護に対する意識にどう影響するのか、また、それに関して世代における違いがあるのかについて検討された報告は見当たらない。そこで本研究では、母娘関係と将来的な母親介護に対する意識との関連について、質問紙調査を通して明らかにし、青年期および中年期の違いを検討した。具体的には、青年期後期女性66名および中年期女性56名を対象として、無記名の質問紙調査を実施し、青年期後期および中年期の女性における母娘関係と介護に対する意識について比較検討を行った。母娘関係の評価には海外でも汎用されている Parental Bonding Instrument (PBI 日本版)⁵⁾を用い、因子分析を行って母娘関係の構造を分析した。その結果、青年期後期および中年期女性の各々に対する PBI 日本版 25 項目において、両世代ともに「過干渉」「愛情」「否定」の 3 因子構造が確認できた。また両世代ともに、「介護」に対して身体的な負担、時間的な制約を理由に否定的な印象で捉えていた。重回帰分析の結果では、将来的な母親の介護に対して、青年期後期女性では「愛情」の関係、中年期女性では「否定」の関係の寄与が大きいことが明らかとなっ

た。本研究の結果より、母娘関係と母親介護に対する意識とは関連がみられることが明らかとなった。なかでも、母親からの愛情が深いと感じている青年期後期の娘は、将来的な母親の介護を積極的に行おうとする意識が高い傾向があった。一方で、母親から否定されていたと感じている中年期の娘は、将来的な母親の介護に対して消極的な意識となっていた。病前の母娘関係を知ることで、早期からの介護サポート体制の整備に繋がる可能性がある。

【指導教員】保健学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 講師 鈴木優喜子

引用文献

- 1) 馬場絢子. 介護以前の親子関係における精神的自立が介護にあたえる影響—母娘関係の受容に注目して—. 応用心理学研究. 2020; 45: 198-206.
- 2) 杉山佳菜子. 成人子とその親子関係—子世代からみた老親扶養意識を中心に—. 老年社会科学. 2010; 31: 458-469.
- 3) 水本深喜. 青年期後期の子の親との関係—精神的自立と親密性からみた父息子・父娘・母息子・母娘間差—. 教育心理学研. 2018; 66: 111-126.
- 4) 久和小枝子, 梁明玉. 中年期女性の親子関係—サンドイッチ世代の2つの親子関係のための尺度開発—. お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター紀要. 2006; 3: 131-140.
- 5) 小川雅美. PBI 日本版の信頼性—妥当性に関する研究—. 精神科治療学. 1991; 6: 1193-1201.